



# 汽水域研究会 (JAES) NEWS LETTER

汽水域研究会発行(本号編集責任者: 河野重範, spinileberis@gmail.com)

年2回(4・10月)発行

第9号

2014年6月30日発行

## 1. 汽水域研究会第2回例会 合同研究発表会開催

汽水域研究会の第2回例会が、2014年1月11～12日の2日間、島根県民会館（島根県松江市）で開催されました。本大会は、例年同様、「島根大学研究機構汽水域研究センター第21回新春恒例汽水域研究発表会」との合同開催でした。

先ず、島根大学の竹内 潤学術・国際担当副学長から、汽水域研究会も年々参加者が増加してきており、宍道湖・中海を抱える地域に立地している大学として、より一層の汽水域研究の発展を願っている。個々の教員のみならず、島根大学としても全面的に地域の活性化や人材育成に取り組んでいきたいと、汽水域関係もその重要な学術分野に位置づけているとの開会挨拶がなされました。

本大会では、シンポジウム「宍道湖で何がおきているのかを再び考える」と5つの常設セッションに加え、スペシャルセッション「宍道湖における突発的な水草の分布拡大の評価と対策」と「完新世における汽水域及びその周辺地域の環境変遷史2014」が生まれ、2日間で計50件の講演が行われました。期間中は、全国各地の汽水域に関する最新の研究成果が発表されましたが、とくに開催地に近い宍道湖・中海に関する研究発表が多く、発表者には参加者による積極的な質疑がありました。また、企業展示は会場入口横に3つのブースが設けられ、水質測定機器をはじめとするいくつかの装置の展示が行われ、休憩時間などには多くの参加者が製品説明を聞くとともに性能などを尋ねていました。なお、本大会の参加者は208名で、汽水域研究会設立以来最大規模の研究発表会となり、研究者のみならず行政や漁業関係者、一般市民からも多く参加者があったことは、汽水域分野への興味や関心の裾野が次第に広がってきていることを感じさせるものでした。

目次：

1. 例会報告	1p
2. 会長就任挨拶	2p
3. 汽水域研究 こぼれ話(第6回)	3p
4. 次期大会のご案内	4p
5. イベント紹介	4p
6. 募集とお知らせ	4p



大会の様子



集合写真



## 2. 汽水域研究会会長就任挨拶

島根大学汽水域研究センター・教授 國井秀伸

高安克己初代会長、そして中尾繁前会長に続き、図らずも汽水域研究会の会長を務めることになりました國井です。専門は植物生態学で、水中あるいは水辺の植物（いわゆる水草）を対象とした調査・研究を行っています。元々は淡水の水草を研究対象としていたのですが、島根大学に学内共同教育研究施設として汽水域研究センターが設立されてそこに席を移してからは、宍道湖・中海をはじめとする汽水域の水草も研究対象として今日に至っています。



今回、汽水域研究会の会長を引き受けるにあたり、改めて趣意書に目を通して見たところ、そこには「汽水域研究会は、国内外の汽水域をフィールドとして研究している個人及び団体を幅広く結集し、学際的な研究領域である「汽水域研究」を発展させ、汽水域の環境保全・修復、持続的な利用などについて検討・提言を行い、社会貢献することを目的としています」と書かれていました。汽水域研究会は、汽水域での研究を発展させるほか、社会貢献も目的としていることを再認識した次第です。

汽水域研究会では、2年前から例会を1月に開催し、大会については10月に開催するというパターンを確立し、2012年に東広島、2013年に横浜、そして今年は網走での大会開催が既に決まっています（詳しくは研究会のHPを参照願います）。例会と大会の開催、そして会誌Lagunaの発行により、研究会が汽水域での研究を発展させていることは間違いありませんが、汽水域の環境保全・修復、持続的な利用などについて検討・提言を行うという社会貢献については、残念ながらまだその目的は果たせていないと思います。研究会ができて4年しか経っていないので仕方ないのかも知れませんが、科学者の社会的責任が日々問われる現在、汽水域研究会は「トランス・サイエンス（trans-science）」の領域の問題群に取り組むため、本格的にトランス・コミュニティとしての機能を発揮すべき時期にきていると感じています。

何をすれば、どのようにすれば汽水域研究会がトランス・コミュニティになれるのでしょうか。このことについては運営委員会で議論してもらい、10月の総会で提案できればと思っていますが、私案として、準会員（サポーター）制度のようなものを設け、汽水域研究の輪を自然科学の研究者から社会科学・人文科学の専門家、自治体や行政の職員、企業人、そして各地の汽水域での課題に関心をもつ一般の方々にまで大きく広げるといったようなことを思い描いています（当面の目標は100名!）。会員の皆様からこの私案に対する異論・反論あるいは賛同の意見が寄せられることを期待して、そろそろ末筆と致します。図らずも務めることになった会長職ですが、就いたからには全力を尽くしたいと思いますので、これから2年間、皆様よろしくお付き合い願います。



### 3. 汽水域研究こぼれ話(第6回)

#### インド洋および太平洋低緯度海域における内湾貝形虫研究の展望 —スリランカ, トリンコマリー湾を例として—

香港大学 博士研究員 岩谷北斗

貝形虫は、一般的に体長1mm以下程度の微小な甲殻類で、世界中の深海から水たまりにいたる、あらゆる水域に生息しています。貝形虫は、生息域の環境変化に対して敏感に反応し、その個体数や種構成を変えるため、底層環境の重要な指標のひとつとされています。その特性を利用して、ヨーロッパやアメリカなど各地の閉鎖海域にて、有機汚濁や富栄養化などの人為的な環境変化や自然の環境変化が、生物の多様性や生産性に与えた影響を明らかにするための研究がおこなわれてきました。日本においても、島根大学の研究グループが中心となり、瀬戸内海や中海などの閉鎖海域にて研究がすすめられ、内湾貝形虫とそれを取りまく海洋環境に関するさまざまな知見が蓄えられてきています。

しかしながら、インド太平洋の低緯度地域の閉鎖海域では、貝形虫に関する研究例が少なく、その実態は十分に明らかにされていません。インド太平洋の低緯度海域は、生物多様性が高いため、人為的な環境変化が起きた場合、そこに生息する生物は深刻な影響を受けることが懸念されます。そうしたなか、近年、香港大学の研究グループを中心としてインドネシアや香港などの閉鎖海域の貝形虫群集とそれを取りまく環境を明らかにするための研究がおこなわれ始めています。私自身も、2011年より、インド洋低緯度地域に位置するスリランカ、トリンコマリー湾の表層試料について貝形虫分析を担当し、その群集組成の実態を明らかにし、生物学的な見地から同湾の環境を評価する取り組みをはじめました。

スリランカは、日本と同様の島嶼国で、熱帯性モンスーン気候区に属し、アジアで最も生物多様性の高い地域のひとつに挙げられます。同地域は、東南アジアと西アジアを繋ぐ生物学的に重要な海域に位置しています。また、研究海域であるトリンコマリー湾は、天然の良港として世界でも有数の面積を有し、水深も深いことから重要な港湾として商業的にも古くから利用されてきました。長年続いたスリランカ内戦の終結に伴い、経済発展が見込まれ観光産業等の活性化も期待されていますが、近年の人口増加と近接する工場地帯の影響による人為的な汚染の発生が懸念されています。

共同研究者とともに、トリンコマリー湾における貝形虫群集の水平分布と底層環境を検討したところ、同湾より認められた貝形虫種の多くは、インド洋縁辺の内湾および浅海域にて一般的に認められる熱帯系種で構成されることが明らかになりました。また、粒度分析や化学分析の結果と比較してみると同湾の貝形虫分布は、水深や塩分、底質などの自然の環境要素により規制されており、人為的な環境要素の影響は比較的少ないようです。この結果の詳細は、*Micropaleontology*にて報告される予定です (Iwatani et al., in press)。

今後、インド太平洋低緯度域における内湾貝形虫の研究が発展し、貝形虫群集に関する知見が蓄積されるとともに、同地域の多くの都市で現在進行している工業化などによる人為的な環境変化の影響の評価や、それらが将来に与える影響の予測が行われるようになることを期待しています。



#### 事務局の連絡先

(平成26年1月7日～平成27年12月31日)  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060  
島根大学汽水域研究センター内

TEL 0852-32-6436

FAX 0852-32-6436

お問合せ先:

office.rgbwa@gmail.com

汽水域研究会のホームページ  
<http://www.jaes.shimane-u.ac.jp/index.html>



#### 4. 次期大会のご案内

2014年10月4～5日に、本研究会の2014年（第6回）網走大会を北海道網走市の東京農業大学生物産学部2号館で開催します。

プログラム（予定）

10/4（土）10：00～18：00

シンポジウム1：網走の汽水湖の生い立ちと年縞堆積物  
ポスター発表

シンポジウム2：汽水湖の水産（仮題）

総会および懇親会

10/5（日）9：00～12：00

エクスカージョン（能取湖・網走湖など）

スケジュール（予定）

9/5（金）参加申込および講演要旨〆切

#### 5. 汽水域関連イベント(2014年7月～10月)

汽水域関連学会・シンポジウム

日本第四紀学会2014年大会

会期：2014年9月5日(金)～9月9日(火)

会場：東京大学柏キャンパス

第17回日本水環境学会シンポジウム

会期：2014年9月8日(月)～9月10日(水)

会場：滋賀県立大学

日本地質学会第121年学術大会

会期：2014年9月13日(土)～9月15日(月・祝)

会場：鹿児島大学郡元キャンパス

2014年度日本海洋学会秋季大会

会期：2014年9月13日(土)～9月17日(水)

会場：長崎大学文教キャンパス



#### 6. 募集とお知らせ

(1) Laguna(汽水域研究)の原稿募集

「Laguna(汽水域研究)」第21巻の原稿を募集します。ホームページに掲載されている投稿規程と執筆要領を参考に、投稿票および原稿を編集委員会までお送り下さい。（大阪工業大学、小島夏彦）

(2) 2014年会費納入のお願い

本年度の会費をまだ納入されていない会員は、会費の納入をお願いします。（島根大学、倉田健悟）

(3) 会員数（2014年6月30日現在）

正会員：69名，賛助会員：2名，学生会員：3名，計74名

(4) 研究会の入会方法

入会をご希望の方は本会HPの申込書に記入の上，研究会事務局までメールはFAXでお申込み下さい。

#### 編集後記

本号の発行が大きく遅れてしまいましたことをお詫び申し上げます。本号から、前任の辻本会員より情報幹事を引き継いだ河野がニュースレターの発行を行います。4月から汽水域のない内陸県へと移動してきました。馴染みのある汽水域や閉鎖性水域から距離が離れてしまったため、少し寂しく感じているところです。もし会員のなかで、本年度の所属や住所等に変更のあった方はお早めに事務局までお知らせ下さい。（栃木県立博物館、河野重範）